

三菱商事復興支援財団

2015 – 2016

希望のいしずえ

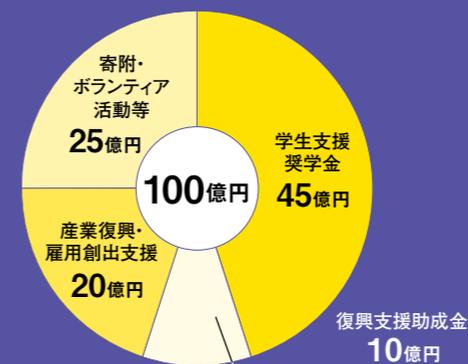
—この言葉に込めた私たちの願い—

この冊子は三菱商事復興支援財団の2015年度の活動報告です。当財団では、被災地の事業者を対象とした産業復興・雇用創出に対する支援、大学生への奨学金の支給、被災地で活動するNPOなどへの助成を行っています。また2015年度からは、福島県で果樹農業の6次産業化を支援するためのプロジェクト(ふくしまワイナリープロジェクト)を開始しています。これらの活動は、被災地の未来を担う若者や、被災地の継続的な復興、経済再生の基礎となる地域産業への、いわば“被災地の未来に対する投資”。“希望のいしずえ”という言葉には、当財団による支援が被災地での希望を生む根幹になってほしいという願いを込めています。

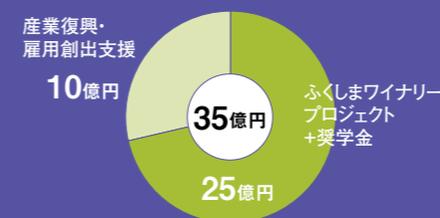
当財団の活動

三菱商事は、2011年3月11日の東日本大震災の復興支援活動のため4年間総額100億円の復興支援基金を創設し、被災した地域の状況やニーズに合わせてさまざまな活動を展開してきました。2012年春には当財団を設立し、被災地の産業復興・雇用創出を目的とした支援を継続しています。2015年度からは5年間分の活動資金として、当財団に対し35億円を追加拠出しました。従来の活動を継続するとともに、福島県郡山市で新たに果樹農業の6次化を支援するワイナリープロジェクト(詳細は24-29頁ご参照)を推進しています。

三菱商事 東日本大震災 復興支援基金 (2011-2014年度)



三菱商事復興支援財団 (2015年度)



三菱商事復興支援財団 2015-2016

- 2 希望のいしずえ
—この言葉に込めた私たちの願い
- 4 産業復興・雇用創出支援
Scheme
—被災地の未来に対する投資
- 6 Interview
セッションナブル
- 10 Inside Story
小高ワーカーズベース
- 14 Tohoku Recovery Support Projects
ひろの屋/アイローカル/
いちばん星/大地フーズ
- 18 Topics
2012-2014年度
産業復興・雇用創出支援先のNEWS
- 24 Fukushima Winery Project
ふくしまワイナリープロジェクト
～果樹農業の6次化支援～
- 30 Facts & Figures
—2015年度活動データ
- 34 2015年度財務報告
—貸借対照表
- 35 三菱商事復興支援財団概要

産業復興・雇用創出支援

当財団では、被災地の経済再生に向け、産業復興や雇用創出に寄与する取り組みを展開しています。地元金融機関などと協働し、2012年度から2015年度までの4年間に、事業の再建や新規事業の立ち上げを目指す50の事業者への出資や融資を実施しています。

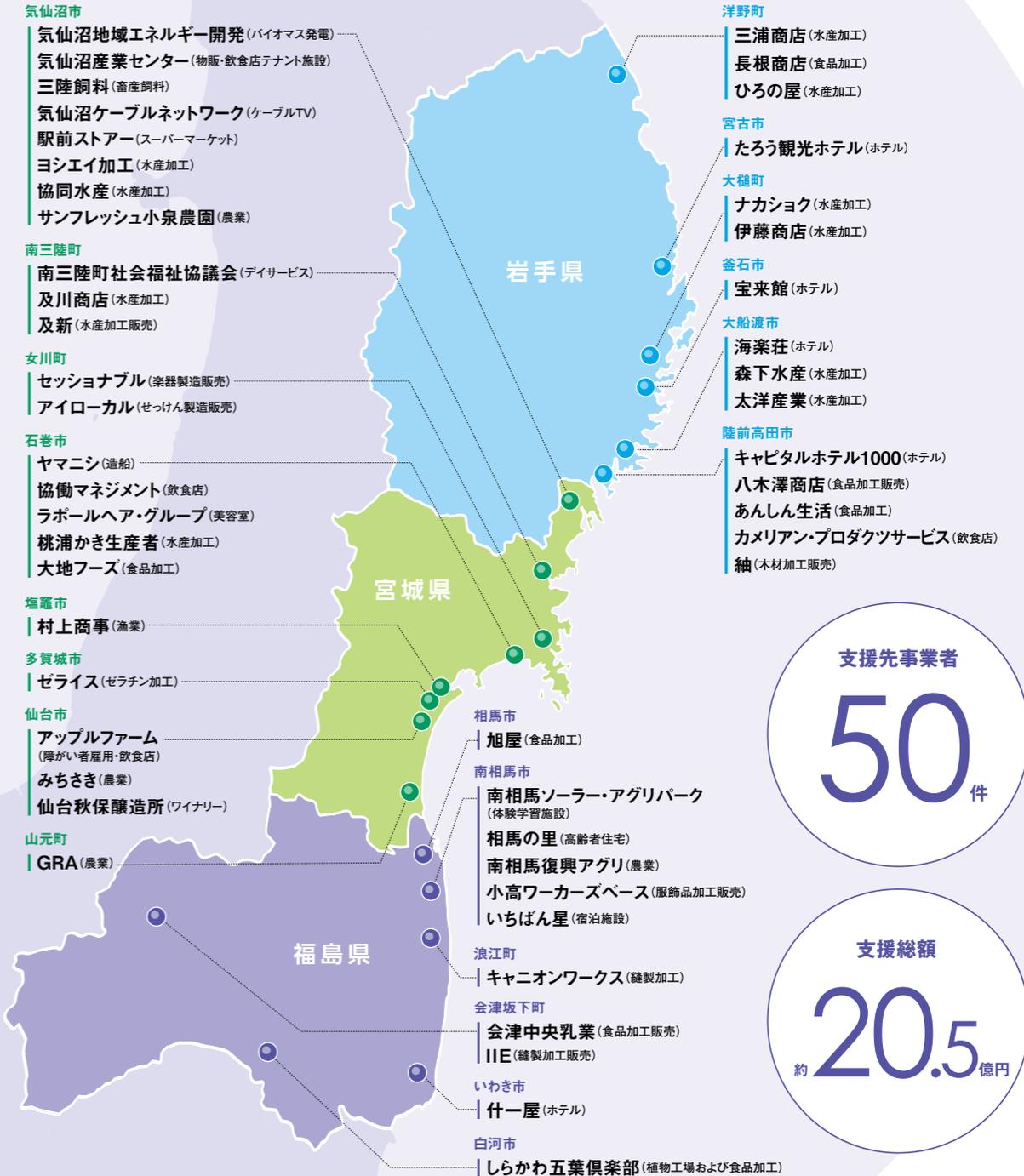
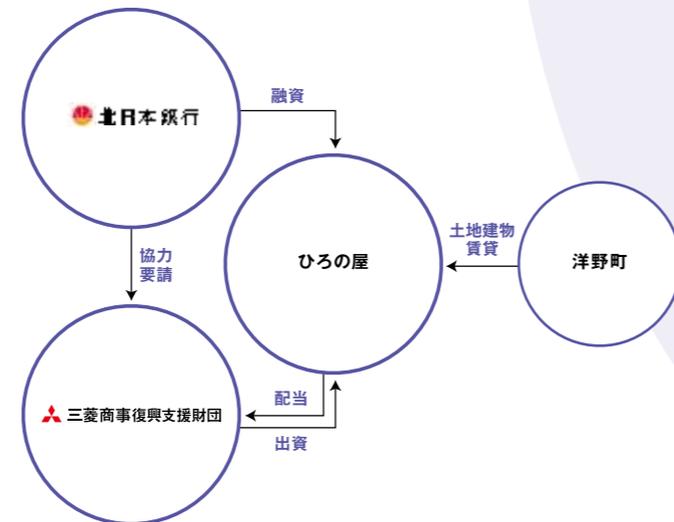
Scheme

被災地の未来に対する投資

産業復興・雇用創出支援では、投融資による活動を行っています。これは返さなくてはならないお金であるが故に生まれる適度な緊張感が、事業の継続を支えていくことにつながると考えたからです。ただし利益を目的とした投資とは一線を画し、事業が軌道に乗って利益を出すまでは配当は猶予します。配当が実現した場合にも、配当分は財団の内部には留保せず、地元自治体や基金などに寄附。復興資金が被災地で循環する仕組みをつくり、地域経済のさらなる自立を促すことを目指しています。

2014年度からは、被災地の状況に合わせ、新規起業案件の立ち上げや、創業期にある企業の事業拡大に伴う初期投資的費用にも門戸を広げました。

● 支援事例 ひろの屋 (岩手県洋野町)



支援先事業者
50件

支援総額
約**20.5**億円

楽器店が軒を連ねる東京・御茶ノ水で、愛好家らに“日本一ギターを売る男”と呼ばれた梶屋陽介代表。震災後、被災地への楽器の寄贈やイベント企画などボランティアに取り組んでいましたが、30歳でセッションナブルを立ち上げました。被災地で起業した理由、今後の抱負などを伺いました。

Interview

セッションナブル

新たな産業を興し、 女川を音楽の街に

メイド・イン・東北のギター工房 GLIDE GARAGEを開設

—震災後、被災地でどのような活動をされたのですか。

楽器店で働く合間に、岩手県の宮古や大槌に出掛け、東京で集めたウクレレを小学校に贈ったり、イベントに参加するミュージシャンを連れて行ったり、全国規模でのダンス大会の東北地区の予選枠をつくったりしました。やがて音楽を文化として根付かせ、若者の雇用を活性化させたいと考えるようになり、自分が詳しいギターを、しかもメイド・イン・東北のギターを作ろうと決意しました。

—具体的にはどんなギターを製作されるのでしょうか。

南三陸産の杉など東北の木材を中心に使用し、パーツの一部は釜石で新開発された合金を、花巻の企業が加工します。また、気仙大工の技術を活用し、デザインは山形出身の世界的な工業デザイナーである奥山清行さんにお願いました。漆塗りの構想もあり、まさにオール東北で、国産の魅力あふれるユニークなエレキギターの製作を目指しています。

—当財団の資金も活用いただき、女川に

GLIDE GARAGEを開設されました。

財団の助成先でもある、創業支援をするNPOのアスヘノキボウから誘いを受け、事業計画書を町に持参したところ、行政の方々や町づくりに取り組む若手の皆さんの反応が良く、トントンと話が進んでいきました。GLIDE GARAGEでは販売も行い、またギター作り体験教室を開くなど、人が集う場所にしていきたいと考えています。



梶屋 陽介
代表

品質で売れるものを作っていきたい

—GLIDE GARAGE 開設に伴い新卒の若者を採用されました。

ギター専門学校の卒業生は毎年150名ほどいますが、国内で雇用されるのは10名程度。仙台にも学校があり30名程度卒業しますが、東北での求人はゼロでした。女川のGLIDE GARAGEが受け皿の一つとして成長していければと思っています。一方で、製作工程の中で研磨や溶接、はんだ付けなどは技術者でなくてもOK。実際に米国などでは老若男女が働いています。その意味で、将来的な雇用の裾野は広いはずです。

—ブランド名は「QUESTREL」(クエストレル)と命名されました。

そこに込めた思いは？

「QUESTREL」は「QUEST」(探究心)と「KESTREL」(ハヤブサ)を組み合わせた造語。ギターは差別化が難しいのですが、ギタリストへ新たな価値を与えるための探究心を忘れず、ハヤブサの端正な容姿、精悍さ、俊敏さ、賢さを併せ持つようなエレキギターを作っていこうとの願いを込めました。ロゴマークもKEN OKUYAMA DESIGNに作成いただき、ハヤブサがテリトリーを見渡す鋭い表情をQの内側に入れて精悍さを表現しています。被災地への同情や、復興を名目を買ってもらおうとしても長続きしません。音が良く、クオリティーが高く、カッコいいから買おうと思われるものを作っていきたい。それがひいては地場産業を育て、雇用創出につながるのだと思います。

—販売に関してはどのようにお考えですか。

2014年11月に仙台にオープンした「GLIDE STORE」で販売する他、海外にも販路を構築していきたいと考えています。財団には資金提供のみならず、販路などでも相談していきたいと思っています。世界で売れる国産ギターブランドを目指し、女川を音楽の街にして地域に貢献していきたいですね。



株式会社セッションナブル

設立
2014年6月6日
所在地
本店および店舗 (GLIDE STORE) 宮城県仙台市青葉区一番町2-7-3
工房 (GLIDE GARAGE) 宮城県牡鹿郡女川町女川浜字 大原シーバルビア女川E棟19
従業員
4名
当財団からの投融資額
2,000万円
当財団の主なパートナー
石巻信用金庫

JR石巻線女川駅前にオープンした商店街に東北産の杉を利用して製造するギター工房を開設し、女川町に新たな雇用と水産業中心の町に製造業という新しい産業創出を目指す。



福島県南相馬市小高区は、東日本大震災に伴う原発事故によって避難区域に指定され、今なお住民の多くが避難生活を余儀なくされています。「帰還に向けて生活環境を整えるには、事業者が先に戻るべき」。そんな信念から、2014年春から小高区でさまざまな事業に取り組む、小高ワークスペースの和田智行代表を当財団は支援しています。

Inside Story 小高ワークスペース

住民ゼロの町で、 ゼロからのスタート

無人の町に仕事を創る

2014年5月、住民の宿泊は原則認められないものの、事業所の再開は可能だった南相馬市小高区で、小高ワークスペースを設立して和田代表がまず始めたのは、コワーキングスペースの運営。住民や来訪者の拠点をつくろうと考えてのものです。JR小高駅前にオフィススペースを設け、作業やミーティングができる環境を整備しました。現場に拠点を築いたことで、課題やニーズが肌で感じられるようになりました。小高区には数千人規模の復旧工事作業員がいましたが、飲食店やスーパーなどが再開されておらず、昼食の調達が著しく困難な状況にあることを実感しました。

そこで和田代表は、2014年12月、震災後小高区では初めてとなる食堂「おだかのひるごはん」をオープン。和田代表自身飲食業の経験はなく、仮設住宅から通う女性4名と“素人”だけで運営する店舗でしたが、作業員の食事環境の改善のみならず、住民が避難先から集うことでコミュニティ再生の場としての役割も果たしました。居抜きで無料で借りていた店舗のオーナーが帰還を決め、2016年3月11日、「おだかのひるごはん」は閉店。しかし、再開を躊躇していた他の飲食店が準備を始めるなど、事業者帰還の呼び水機能も果たしました。

再開を躊躇していた他の飲食店が準備を始めるなど、事業者帰還の呼び水機能も果たしました。

2015年9月からは、南相馬市からの業務委託を受けて仮設スーパー「東町エンガワ商店」を運営しています。流通業は初めての和田代表は、当初は商品の仕入先にも事欠きでしたが、作業員らの利用が増え、固定客が付いて順調に推移。現在では生鮮食品や酒類など品ぞろえを充実させ、帰還準備を進める住民の利用も徐々に増えてきています。

和田 智行
代表

課題が100あるなら、 解決するビジネスを100件創出すればいい

和田代表は1977年、小高区で織物業を営む両親のもとに生まれました。大学卒業後、東京都内のITベンチャー企業の役員となり、2005年に小高にUターン。在宅で、プログラミングやwebデザインの仕事をネット経由でこなすスタイルを確立していましたが、震災で小高を離れ、避難所を転々とするのを余儀なくされました。現在は妻と子ども2人が避難する会津若松市と、両親が暮らす南相馬市原町区を行き来する生活を送っていますが、故郷である小高の再生へはひとかたならぬ思いを抱いています。

小高区の活性化を目指し、特に女性の雇用増と帰還を促進するため、2015年11月には、ガラスメーカーのHARIO ランプワークファクトリーの協力を得て、「HARIO ランプワークファクトリー小高」としてガラスアクセサリーの生産販売を始めました。2016年6月には、当財団の資金を活用してガラスアクセサリー専用の工房を開設。地元の女性が集まって働く風景を生み出し、そんな姿を通学する高校生に見せてあげたい。そして、小高に若者は戻れないという諦めの気持ちを覆し、住民に希望を持ってもらいたい。

工房開設には、そんな願いが込められています。

小高区は、2016年7月12日に住民の避難指示が解除され、帰還が本格的に開始。しかし、解決しなければならない問題はまだまだ多く、和田代表の意欲がそがれることはありません。

「住民が暮らすための課題が100あるとするならば、それらを解決するビジネスを100件創出すればいい。例えば、無人走行の自動車による高齢者の移動サービスなど、人が少ないからこそできる実験や開発もあるはずで、地域のフラッグシップカンパニーを目指します。そしてゼロからイチを生み出すことを普通に感じる風土を醸成することで、自立した持続性のある地域の創出に貢献していきたいと思います」



株式会社 小高ワークスペース

創業

2014年5月15日
(設立 2014年11月13日)

所在地

福島県南相馬市小高区東町1-37

従業員

8名

当財団からの投融資額

300万円

当財団の主なパートナー

あぶくま信用金庫

震災後、避難区域となり、全てがなくなり「ゼロ」状態となった南相馬市小高区で、シェアオフィス、仮設スーパーを運営。ガラス細工事業を拡大し、女性雇用と帰還促進を目指す。

HARIO Lampwork Factory
ODAKA





ひろの屋

「うに牧場」の世界ブランド化に挑む

岩手県洋野町全域、約15キロメートルにわたって広がる「うに牧場」。約45年前に浅瀬の岩盤に溝を掘り、うにが住みやすい環境が整えられました。栽培センターでうにの種苗が生産され、外洋で稚うにを育成した後、うに牧場で天然昆布のみ給餌されます。ひろの屋は、うに牧場で育てられる、高品質で安定供給可能なうにのブランド化を通じて、地域漁業の拡大と雇用の創出を目指しています。



下学坪 之典 代表

株式会社ひろの屋

設 立	2010年5月18日	従 業 員	12名
所 在 地	岩手県九戸郡洋野町種市22-131-18	当財団からの投融資額	1,250万円
		当財団の主なパートナー	北日本銀行

海産物の卸と加工に加え、北三陸産うにのブランド化に取り組む。洋野町の給食センターを改装し、新たな水産加工工場を整備。新商品開発と輸出増加によって事業拡大を目指す。

<http://hirono-ya.com/>



厨 勝義 代表

「若者が働きたいと思える職場を被災地で作りたい」。アイローカルはそんな思いからせっけん工房を始めました。海藻、蜂蜜、ハーブ、シルクなど地産の素材を中心に活用。人にも、環境にも優しいせっけんは、従来にない手作り感と、とことんこだわり抜いたかわいらしい1インチ角の形が話題となり、「インテリア用せっけん」という新たなジャンルを開拓しつつあります。

株式会社アイローカル

設 立	2014年6月23日	従 業 員	2名
所 在 地	宮城県牡鹿郡女川町浦宿浜字十二神60-3	当財団からの投融資額	200万円
		当財団の主なパートナー	仙台銀行

海藻など地産の素材を活用した手作りせっけんを製造・販売。財団資金を活かし、販路拡大と海外展開を計画して若者の雇用増を目指す。

<http://www.i-local.co>

“インテリア用せっけん”で若者を被災地に呼ぶ

アイローカル





星 巖 代表

いちばん星

おいしい野菜料理と 農業体験を楽しめる 農家民宿

復興ボランティアの宿泊施設不足解決のため、南相馬市役所職員だった代表の星氏が自宅を無料開放したのが始まり。小さくてもピカッと輝く復興プロジェクトにしていこうと、一般社団法人を設立し、農家民宿「いちばん星」を2012年7月開業しました。日帰り入浴、アルパカ牧場、野菜の通販、喫茶、貸しホールなどの事業を、財団資金を活用して設立した株式会社で担い、補助金に頼らない、持続的な収益事業へ成長を図ることを目指しています。

株式会社 いちばん星

設 立	2016年4月	従 業 員	5名
所 在 地	福島県南相馬市原町区 金沢字追合116	当財団からの投融資額	1,000万円
		当財団の主なパートナー	あぶくま信用金庫

ボランティアの宿泊施設不足解決のため、一般社団法人を設立し、いちばん星南相馬プロジェクトをスタート。財団資金を活用し、株式会社化して持続的な事業として安定成長させていくことを目指す。

<http://www.ichibanboshi-minamisoma.org/noukaminsyuku/>

宮城県石巻市で冷凍ハンバーグやミートボール、弁当商材などを製造していましたが、津波により営業を停止。2012年、美里町に工場を移転し事業を再開しました。被災前従業員100名を一度全員解雇したものの、現在は44名にまで回復。安心・安全な食品をベースに、時代のニーズに合わせたスピーディーな商品開発に挑戦し、新規受注先の開拓に取り組み、食を通して地域社会への貢献を目指しています。



須永 光春 代表

株式会社大地フーズ

設 立	1996年7月25日	従 業 員	44名
所 在 地	宮城県遠田郡美里町 二郷字南八丁2-1	当財団からの投融資額	1,000万円
		当財団の主なパートナー	岩手銀行

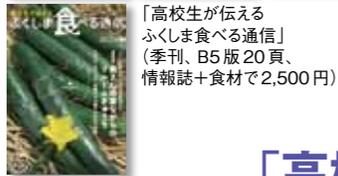
冷凍ハンバーグやミートボールなどの食品製造業。被災により、2012年宮城県石巻市から移転し事業再開。財団資金を活用し冷凍保管庫を建設して、増産体制構築を目指す。

<http://daichi-foods.co.jp/>

大地フーズ

変わらぬおいしさを食卓へ





「高校生が伝える
ふくしま食べる通信」
(季刊、B5版20頁、
情報誌+食材で2,500円)

南相馬ソーラー・ アグリパーク

福島・南相馬市

「高校生が伝える ふくしま食べる通信」創刊

人材育成の一環として、県内の高校生向けに社会起業塾を運営する中、風評被害を解決したいという志から「高校生が伝えるふくしま食べる通信」を高校生と協働して創刊。誌面の企画、生産者への取材などを通して、高校生たちの成長につながっています。



宝来館

岩手・釜石市

祈りの風船を飛ばし 完成を祝う

2015年4月23日、関係者約80名が集まり、復興落成祝賀会を開催。神事に引き続き黙とうを捧げ、犠牲者の鎮魂と地域再生を願いました。岩崎昭子社長は「多くの方の支援で再出発できた。三陸の良さを世界中の人に伝えたい」と笑顔で挨拶しました。

「今日が宝来館の2度目の誕生日」と岩崎社長。復興落成祝賀会の様子



桃浦かき生産者

宮城・石巻市

日本初のカキ 超高压処理機を導入

2015年5月18日、カキ超高压処理機の披露式を開催。大山勝幸代表社員は「全国のカキ養殖事業者が抱える人材不足の問題解決の方向性を示したい」と挨拶しました。6次化にも取り組み、付加価値の高い商品を提供し、事業拡大を目指しています。



カキ超高压処理機は1時間当たり約40キログラムの生産が可能で、滅菌効果も得られる



長根商店

岩手・洋野町

衛生管理を高めた 新工場が完成

2015年5月2日、工場落成式を開催。新工場は、衛生管理機能を強化した他、キノコの栽培施設と保管庫を同一敷地内に構え、生産拠点を集約しました。OEMに力を入れ、事業拡大を目指しています。



新設された工場。原料洗浄機を導入し、衛生管理を高めた





GRA

宮城・山元町

イチゴの通年栽培施設
「ICHIGO WORLD」をオープン

2015年6月25日、イチゴの通年栽培施設「ICHIGO WORLD」を完工。新たに5名の地元農家を雇用しました。今後は、就農支援事業にも注力し、日本の農業の担い手を増やし、ミガキイチゴ生産農家のフランチャイズ化を目指しています。



“食べる宝石”がコンセプトの「ミガキイチゴ」

たろう
観光ホテル

岩手・宮古市

岩手三陸の雄大な
景色を望む宿

2015年6月1日、新ホテル「渚亭 たろう庵」をグランドオープン。松本勇毅社長は「大好きな田老に再建できた。自然の恵みを知ってもらい、地域の復興にも役立てたい」と5年越しの再建の喜びを語りました。



「渚亭 たろう庵」
外観とロビー。
松本社長撮影の
津波映像を見せ
たり、震災風化を
防ぐための取り組
みも行う



子どもたちは自然
の中でのさまざまな
体験を通じて学ぶ

sweet treat
311

宮城・石巻市

「MORIUMIUS」
オープン

2015年7月11日、子どもの複合体験施設「MORIUMIUS」のオープニングセレモニーを開催。子どもの体験学習受け入れを開始し、地元出身の若者2名を含む6名が新たに雇用されました。



サンフレッシュ
小泉農園

宮城・気仙沼市

トマトの大規模
養液栽培施設が完成

2015年9月3日、トマトの大規模養液栽培施設を完成させ、関係者約100名を集め式典を開催。今野圭一社長は「小泉地区は復興が遅れている。持続的な経営を確立しながら、地域のにぎわいを生み出したい」と意気込みを語りました。



アロハシャツの制服
で働く従業員。34名
が雇用された

ヤマニシ

宮城・石巻市

1万トン級貨物船の
進水式を開催

2015年9月1日、関係者約400名を集め、国内フェリー会社向け貨物船の命名進水式を開催。東日本大震災後、東北での1万トン級の貨物船の進水式は初めて。長倉清明社長は「1万トン級の船を無事に進水させることができ安心した。復興のシンボルにしたい」と話しました。

「琉球エクスプレス3」
(総トン数1万750
トン、全長160メー
トル、幅24メートル)



会津中央乳業

福島・会津坂下町



会津の生乳と塩だ
けで作った、手で
裂ける「つしまでよ
いよいチーズ」(40
グラム・350円)

会津の生乳を活かした
フレッシュなチーズを発売

2015年8月7日、財団資金を活用して開発したチーズの発売を開始。二瓶孝也社長は「お客さまの反応を聞きながら改善し、大事に育てていきたい。新しい販路を切り開く突破口にしたい」と期待を込めて語りました。



秋保ワイナリー



南相馬
復興アグリ

福島・南相馬市

トマトの大規模
生産工場が完成

2016年1月20日、トマトの大規模生産工場の完成を記念する式典を開催し、関係者約130名が出席。半谷栄寿社長は「地元の人間として、福島の復興に役立ちたいという思いでやってきた。消費者に選ばれるトマト作りをしていきたい」と挨拶しました。



約2.4ヘクタールの敷地に栽培面積1.5ヘクタールの大型ハウスが整備された

仙台秋保
醸造所

宮城・仙台市



秋保ワイナリーの商品ラインアップ

宮城県唯一の
ワイナリーが完成

2015年9月28日、「秋保ワイナリー」の完成式典を開催。12月には一般公開を開始しました。クリスマスシーズンに赤ワインとロゼワインを、また3月に宮城県内から仕入れたリングで醸造した「シールドル」(甘口と辛口の2種類)を発売しました。

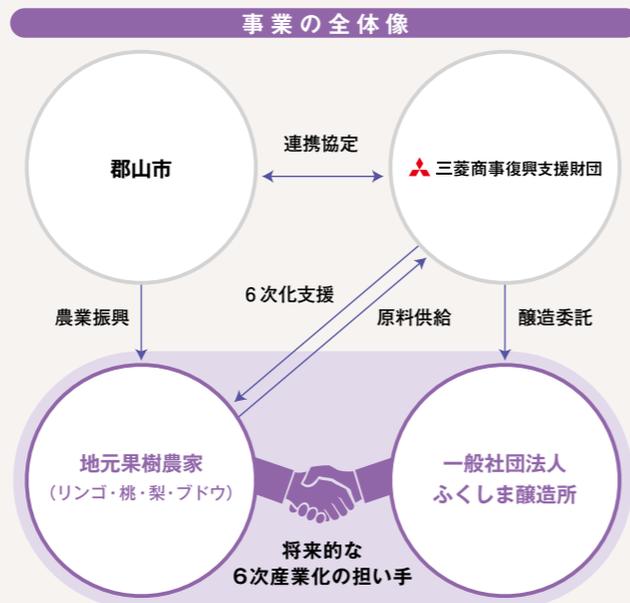
ふくしまワイナリープロジェクト

～果樹農業の6次化支援～

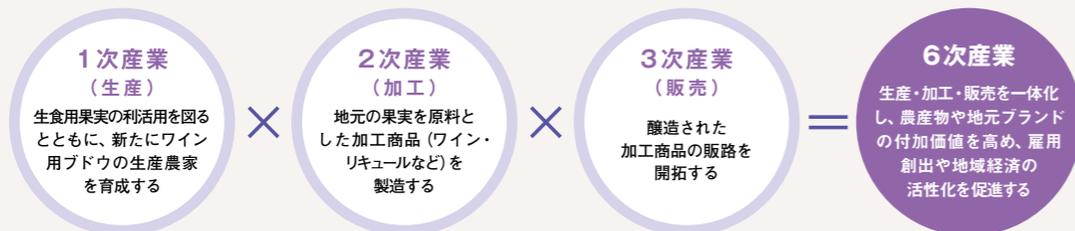
当財団は福島県郡山市と連携協定を結び、2015年2月より果樹農業の6次産業化を支援するためのプロジェクト（ふくしまワイナリープロジェクト）に取り組んでいます。郡山市逢瀬町に醸造施設「ふくしま逢瀬ワイナリー」を建設し、2016年3月、初めての商品を出荷しました。

果樹農業の6次化を支援するワイナリー事業は、福島県の特産品である果物の生産から加工、販売までを一体的に運営する新たな事業モデルを構築し、農産物や地元ブランドの付加価値を高めることを目指すものです。

福島県で生産されたリンゴや桃、梨、ブドウを原料に、ふくしま逢瀬ワイナリーでワインやリキュールなどを生産。また地域農業のさらなる活性化を後押しすべく、新たにワイン用ブドウの生産を開始する農家を支援していきます。



● 6次産業化モデルの確立へ



ふくしま逢瀬ワイナリーから 福島県の果物の新しい実りが始まります

「ふくしま逢瀬ワイナリー」の敷地は約9,000平方メートル。建物は鉄骨平屋建て約1,400平方メートルで、1,000リットル用と2,000リットル用の醸造タンク26本（総容量3万8,000リットル）が並び、ブランデーなどを造るためにドイツ製の蒸留機も備えています。試飲コーナーやセミナー室も設置し、地元の方々をはじめ多くの人々が集う、憩いの場、交流の場となることを目指しています。

竣工式を開催

2015年10月27日、醸造施設「ふくしま逢瀬ワイナリー」の竣工式を開催しました。郡山市の品川市長や果樹農家をはじめ、関係者約80名が出席。当財団の廣田副会長が、「地元の方々と一緒に汗を流し、しっかりプロジェクトを進めていく」と挨拶しました。「ワイナリーを基盤として新しい農業が広がるよう、全力で応援したい」と品川市長が祝辞を述べ、テープカットなどで竣工を祝いました。



ふくしまの果物が

ワインに実りました

2016年3月、ふくしま逢瀬ワイナリーの第1弾の商品として、ロゼのスパークリングワイン(ブドウ)とシードル(リンゴ)を出荷しました。

当面は、福島県内のホテル・旅館・レストラン・観光施設・土産店などでの地産地消を計画。徐々に生産量を増やし、将来的には東北地区や首都圏のレストラン・小売店などへ販路を拡大することを目指しています。



**OUSE
WINERY**
Fukushima

- ロゴマークは果物と種と、アルコールが発酵する形を表現しています。
- ワイナリーの地元「逢瀬：OUSE」の「O」でもあります。
- 福島県の地形もイメージし、中の丸は猪苗代湖を表しています。



ワイナリー醸造責任者
佐々木 宏

醸造酒は原料の味で決まります。福島産果実の自然なおいしさを引き出し、ここで造るワインが福島農業復興の一助になればうれしいです。



MUSCAT BAILEY
A ROSE 2015

大きな寒暖差が、うま味の詰まったさまざまな農作物を生み出す会津盆地。豊かな山が育む水と自然の酵素などを利用して栽培したマスカット・ベリーAをそのままプレスして低温発酵しました。心地よい泡にイチゴのようなフレッシュで甘やかな香りが口いっぱいに広がるスパークリングワインです。

CIDRE 2015

福島県産のリンゴ「ふじ」を100%使用。福島県の「ふじ」は開花から収穫までの期間が長く、太陽の恵みをたっぷり受け、じっくり完熟した芳醇な甘味と酸味のバランスが大きな特徴の一つ。農家が丹精込めて作った「ふじ」の実と皮と果汁と一緒に低温発酵しました。フレッシュな香りと果実味を感じるシードルです。

果樹農家の皆さんに、ふくしまワイナリープロジェクトに取り組む想いを聞きました。



果樹園やまと
阿部 幸弘さん
(福島市)

新しい未来を創りたいとの想いで参画しました。息子や孫など次世代に想いを伝承していけるようなプロジェクトに育てていければと思っています。



郡山市園芸畜産振興課
箭内 勝則 課長補佐
(郡山市)

加工から販売までの仕組みを財団が整備してくれたことで、農家の皆さんのモチベーションが高まり、具体的な課題・目標が明確になりました。

カ丸果樹園
カ丸 哲さん
(郡山市)

リンゴの味には自信があります。このプロジェクトを通じて、福島産の農産物のおいしさと安全性をアピールしたいと思います。



橋本農園
橋本 寿一さん
(郡山市)

誰かが風穴を開けなければ、前には進みません。若い世代に引き継いでいくため、福島県の農業に新しい道を開く起爆剤になれば、うれしいですね。



メルロー



シャルドネ

将来を見据えた動きが スタートしています

2015年度、郡山市はワインの産地づくりを目指し、ワイン用ブドウの植栽について補助事業を実施。新たにワイン用ブドウの栽培に挑戦する農家を公募し、9軒の農家に補助金が交付されました。



地元活性化のために

果樹農家
遠藤 喜敬さん

逢瀬町で生まれ育ちましたが、県外で大学を卒業して社会人を経験したことで、町の良さを改めて認識しました。ワイナリーが建設され、今までになく逢瀬は脚光を浴びています。ワイン用ブドウの栽培は容易ではないと思いますが、町の活性化のためにも頑張りたいと思います。



ワイン用ブドウの産地を目指して

郡山市園芸畜産振興課
松尾 真奈さん

ワイン用ブドウを栽培する生産者の支援を行っています。郡山市ではワイン用ブドウの栽培実績があまりなく、初めて栽培する方も多いため、私たちにとっても手探りで挑戦です。郡山産ワインを楽しみにしている皆さんの期待に応えられるよう、しっかりとサポートしていきます。

御前人参

フルーティーな香りと甘さが自慢でカロテン含量も高く、芯まできれいなオレンジ色。加熱料理の他、ジュースにしてもおいしく、福島名物の「いかにんじん」にもよく合います。



うねめ牛

「采女牛を育てる会」の会員が出荷する黒毛和種雌牛の中で、肉質等級が4級以上のブランド牛。軽やかな口当たりとまろやかな味わいは、「うねめが羽衣を羽織る」ようなイメージです。



郡山の鯉

猪苗代湖から安積疎水によって引かれたミネラル豊富できれいな水で育てられた鯉は、肉厚で軟らかく、甘味豊かで、出荷量も全国トップです。

ふくしまの食材

福島県にはおいしい食材がいっぱい。ふくしま逢瀬ワイナリーで将来生産されるワインとのマリアージュが期待されています。



グリーンスウィート

つややかな緑色で、茶豆にも負けない甘味と香り高い枝豆。収穫間際の畑では、甘い香りが漂います。店頭から真っ先に消えてしまうほどの人気です。



大葉ペースト

清らかな水と肥沃な大地で育った軟らかく香り高い大葉を国産ニンニクとオリーブオイルでペースト状にした「和製バジルソース」です。茹でたてパスタと和えるだけで、おいしく召し上がれます。



万吉どん

抗酸化性に優れ、動脈硬化や糖尿病の予防に効果が期待できる成分「ケルセチン」が従来の品種より豊富。糖度も高く、加熱調理向きのタマネギです。

Facts & Figures

2015年度活動データ

● 産業復興・雇用創出支援(2012-2015年度)

2015年度

支援先	概要	出資額(百万円)
セッションナブル (宮城県女川町)	東北産の杉などを利用して製造するエレキギターの工房開設支援。	20
小高ワークスペース (福島県南相馬市)	避難区域となった南相馬市小高区への復帰を促す活動を展開。ガラスアクセサリ工房開設を支援。	3
ひろの屋 (岩手県洋野町)	洋野町沿岸全域に広がる「うに牧場」で育成される北紫うにのブランド化事業を支援。	12.5
アイローカル (宮城県女川町)	地産の素材を活用した手作りせっけんの製造販売事業を支援。	2
大地フーズ (宮城県美里町)	冷凍ハンバーグ等の製造事業立て直しのため、保管冷凍庫の増設を支援。	10
いちばん星 (福島県南相馬市)	農家民宿等を経営する社団法人の株式会社化を支援し、雇用増を目指す。	10
2015年度合計(計6件)		57.5

2014年度

支援先	概要	出資額(百万円)
ナカシヨク (岩手県大槌町)	津波で全壊した工場を2012年再開。財団資金で一括仕入れ体制構築を支援。	40
協同水産 (宮城県気仙沼市)	サメのすり身加工の特許を保有。2012年に事業再開。一部機械の更新を支援。	20
仙台秋保醸造所 (宮城県仙台市)	宮城唯一のワイナリーとして、東北産原料を積極的に活用。交流人口増加への寄与を目指す。	50
旭屋 (福島県相馬市)	B-1グランプリ「なみえ焼そば」の加工工場移転を支援。2014年8月竣工。	50
南相馬復興アグリ (福島県南相馬市)	地元関係者とトマト生産施設を2015年11月建設。農業人材育成にも取り組む。	50
しらかわ五葉倶楽部 (福島県白河市)	ホウレン草の植物工場とムース食品工場による6次化事業を支援。2014年12月竣工。	50
会津中央乳業 (福島県会津坂下町)	ワンランク上の乳製品を製造販売。チーズの新ブランド開発を支援し、2015年8月発売。	12
サンフレッシュ小泉農園 (宮城県気仙沼市)	壊滅的な被害を受けた水田地帯での、トマト水耕栽培事業創業を支援。2015年9月竣工。	50
及川商店 (宮城県南三陸町)	4工場を流出し、1つの工場での事業回復に努めてきた。水産加工団地への工場建設を支援。	50

支援先	概要	出資額(百万円)
桃浦かき生産者 (宮城県石巻市)	カキの6次化事業者へ、日本初の高圧式カキ剥き機導入を支援。2015年5月竣工。	30
及新 (宮城県南三陸町)	水産加工団地への、地元特産であるメカブの加工工場新設を支援。24名の雇用創出予定。	50
紬 (岩手県陸前高田市)	震災後起業した、地域資源の気仙杉を活用した家具キット等の製造販売事業者への支援。	5
IIE (福島県会津坂下町)	震災後起業した、伝統工芸会津木綿を用いた雑貨商品の製作販売事業者への支援。	7
2014年度合計(計13件)		464

2013年度

支援先	概要	出資額(百万円)
気仙沼産業センター (宮城県気仙沼市)	気仙沼魚市場に隣接していた、海鮮市場「海の市」の再建支援。	50
ゼライス (宮城県多賀城市)	東北地方唯一のゼラチンおよびコラーゲンの製造企業の検査センター再建支援。	50
三浦商店 (岩手県洋野町)	岩手県内唯一のサバの取扱量を誇る水産加工事業者への支援。	20
海楽荘 (岩手県大船渡市)	大船渡市碓石海岸で人気の民宿「海楽荘」を営む事業者へのホテル新規創業支援。	50
八木澤商店 (岩手県陸前高田市)	200年以上にわたり陸前高田市でしょうゆ・みそなどの醸造業を営んできた事業者への支援。	31
駅前ストア (宮城県気仙沼市)	気仙沼市内でスーパーマーケット「クリエみうら」を展開する事業者への支援。	50
協働マネジメント (宮城県石巻市)	石巻市での飲食店開業支援。2016年4月リニューアルオープン。	19
みちさき (宮城県仙台市)	津波により塩害を受けた4ヘクタールの土地に、大規模養液栽培ハウスを新設した事業者への支援。	100
キャニオンワークス (福島県浪江町)	福島県浪江町で縫製工場を営業していた事業者の、いわき市への工場新設を支援。	50
宝来館 (岩手県釜石市)	本館のリニューアルと、完全に流失した別館の再建を支援。2015年4月完成。	20
ヨシエイ加工 (宮城県気仙沼市)	気仙沼で水揚げされるサメの買い付けにこだわる、フカヒレ加工業者への支援。	60
村上商事 (宮城県塩竈市)	近海マグロ漁業や冷蔵保管業務を行う事業者への支援。	30
GRA (宮城県山元町)	地元農家の方を雇用し、IT技術を駆使した新たなイチゴ栽培に挑戦している企業への支援。	50
カメラマン・プロダクツサービス (岩手県陸前高田市)	2013年10月に起業した飲食店を展開する企業への創業支援。	30

支援先	概要	出資額(百万円)
あんしん生活 (岩手県陸前高田市)	地元海産物を利用した冷凍加工品を製造販売する事業者への支援。	20
什一屋 (福島県いわき市)	福島県富岡町から移転。2014年8月、いわき市でホテル事業再開。	50
長根商店 (岩手県洋野町)	キノコや山菜の加工・販売を行う事業者の工場移転・拡張を支援。2015年5月竣工。	30
2013年度合計(計17件)		710

2012年度

支援先	概要	出資額(百万円)
キャピタルホテル1000 (岩手県陸前高田市)	産業復興・雇用創出支援第1号案件。気仙沼信用金庫との協働により、津波により全壊したホテルの再建を支援。2013年11月オープン。	100
ヤマニシ (宮城県石巻市)	東北最大級の造船所。東日本大震災事業者再生支援機構や地元・七十七銀行が総額100億円規模の金融支援を実行。2014年1月、修繕ドック完成。	100
ラポールヘア・グループ (宮城県石巻市)	被災地域の美容師に働く場を提供することを目的に起業した美容室チェーンへの支援。	40
南相馬ソーラー・アグリパーク (福島県南相馬市)	福島県南相馬市に建設された太陽光発電所と植物工場を利用した、子どもたちの職業体験プログラムへの支援。2013年5月オープン。	30
南三陸町社会福祉協議会 (宮城県南三陸町)	津波により全壊したデイサービスの再建支援。町内に2カ所のデイサービス施設を建設。	22
三陸飼料 (宮城県気仙沼市)	気仙沼地域の水産加工業者から出る魚のアラ等を原料として、畜産飼料を製造する事業者に対する支援。	100
気仙沼ケーブルネットワーク (宮城県気仙沼市)	防災放送機能を重視する気仙沼市もバックアップする、ケーブルテレビ事業再建への支援。	50
気仙沼地域エネルギー開発 (宮城県気仙沼市)	木質バイオマスを利用した熱電併給事業への支援。2016年2月本格稼働。	100
大洋産業 (岩手県大船渡市)	大船渡発祥の水産加工メーカー。同社主力商品である鮭フレークの工場再建を支援。	100
伊藤商店 (岩手県大槌町)	釜石市に本社を置く水産加工業者の冷蔵施設再建を支援。	50
相馬の里 (福島県南相馬市)	南相馬市におけるサービス付高齢者住宅の新設支援。	30
たろう観光ホテル (岩手県宮古市)	津波で壊滅的被害を受けたホテルの高台での再建支援。2015年6月「渚亭 たろう庵」オープン。	40
アップルファーム (宮城県仙台市)	仙台市における障がい者雇用飲食サービス事業への支援。	10
森下水産 (岩手県大船渡市)	大船渡市の水産加工業者の新工場建設支援。2015年2月竣工。	50
2012年度合計(計14件)		822

● 学生支援奨学金

	2015年度
性別	人数
男子	332
女子	334

	2015年度
学年	人数
大学1年	2
大学2年	149
大学3年	204
大学4年	250
大学5年*	13
大学6年*	17
短大1年	1
短大2年	29
短大3年	1

* 医歯薬学部生

	2015年度	
都道府県別	学校数	人数
北海道	3	3
青森	1	1
岩手	7	61
宮城	18	165
秋田	3	11
山形	3	24
福島	6	14
茨城	5	9
栃木	6	19
群馬	3	8
埼玉	11	45
千葉	6	15
東京	55	214
神奈川	14	26
新潟	2	15
石川	1	7
静岡	1	2
愛知	2	2
京都	3	12
三重	1	2
大阪	1	7
広島	1	1
大分	1	1
沖縄	1	2
	155校	666名

年度	受給者数
2011年度	633名 (約7.6億円)
2012年度	1,072名 (約12.9億円)
2013年度	996名 (約12.0億円)
2014年度	994名 (約11.9億円)
2015年度	666名 (約8.0億円)
累計	4,361名 (約52億円)

● 復興支援助成金

年度	助成件数
2011年度	185件(約4.5億円)
2012年度	184件(約4.2億円)
2013年度	48件(約1.2億円)
2014年度	8件(約0.5億円)
累計	425件(約10億円)

2015年度 財務報告

貸借対照表

2016年3月31日現在

公益財団法人 三菱商事復興支援財団

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	9,460,172	47,602,883	△ 38,142,711
売掛金	3,394,224	0	3,394,224
未収入金	1,525,724	2,314,177	△ 788,453
原料	436,364	0	436,364
副原料	371,549	0	371,549
資材	867,021	0	867,021
仕掛品	17,488,445	0	17,488,445
立替金	45,360	0	45,360
前払費用	2,473,179	665,377	1,807,802
仮払金	702,728	0	702,728
流動資産合計	36,764,766	50,582,437	△ 13,817,671
2. 固定資産			
(2) 特定資産			
事業積立資産	396,597,214	485,409,142	△ 88,811,928
出資金	1,767,000,000	1,794,000,000	△ 27,000,000
長期貸付金	197,600,000	149,800,000	47,800,000
敷金	1,621,880	1,621,880	0
建物	536,301,429	0	536,301,429
機械・設備	131,518,164	0	131,518,164
建設仮勘定	0	3,736,800	△ 3,736,800
建物付属設備	167,589,778	0	167,589,778
構築物	61,009,253	0	61,009,253
什器備品	626,775	0	626,775
特定資産合計	3,259,864,493	2,434,567,822	825,296,671
(3) その他固定資産			
建物附属設備	854,885	1,023,400	△ 168,515
什器備品	317,348	404,814	△ 87,466
敷金	15,500	700	14,800
ソフトウェア	910,106	1,903,274	△ 993,168
長期未収収益	2,406,575	1,606,575	800,000
その他固定資産合計	4,504,414	4,938,763	△ 434,349
固定資産合計	3,264,368,907	2,439,506,585	824,862,322
資産合計	3,301,133,673	2,490,089,022	811,044,651
II 負債の部			
1. 流動負債			
買掛金	1,833,798	0	1,833,798
未払金	11,599,455	9,108,043	2,491,412
預り金	46,047	20,420	25,627
流動負債合計	13,479,300	9,128,463	4,350,837
負債合計	13,479,300	9,128,463	4,350,837
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	3,259,864,493	2,434,567,822	825,296,671
(うち特定資産への充当額)	3,259,864,493	2,434,567,822	825,296,671
2. 一般正味財産	27,789,880	46,392,737	△ 18,602,857
正味財産合計	3,287,654,373	2,480,960,559	806,693,814
負債及び正味財産合計	3,301,133,673	2,490,089,022	811,044,651

三菱商事復興支援財団概要

2016年6月30日時点

名 称 公益財団法人 三菱商事復興支援財団

設立目的 東日本大震災において被災した地域の復興に寄与することを目的とする

事業内容 1. 奨学金の給付
2. 団体 (NPO 法人や社会福祉法人など) に対する助成金の給付
3. その他、産業復興・雇用創出などに資する事業

役 員

会長
小林 健 (三菱商事 取締役会長)

副会長
廣田 康人 (三菱商事 代表取締役 常務執行役員 コーポレート担当役員)

代表理事
藤村 武宏 (三菱商事 環境・CSR 推進部長)

理事
足達 英一郎 (日本総合研究所 理事)
上野 征夫 (ドリームインキュベータ 取締役)
大島 仁志 (公益財団法人 民際センター 理事)

評議員
末吉 竹二郎 (国連環境計画 金融イニシアチブ特別顧問)
鬼頭 宏 (静岡県立大学学長)
小川 広通 (三菱商事 生活産業グループ CEO オフィス室長)

監事
蜂谷 由文 (三菱商事 主計部長)
藤間 秋男 (公認会計士)

サ イ ト <http://www.mitsubishicorp-foundation.org/>

所 在 地 〒100-8086 東京都千代田区丸の内2-3-1
03-3210-9770 (代)

[郡山事務所]
〒963-8004 福島県郡山市中町1-22 郡山大同生命ビル10階
024-955-6011



P13-0128





希望のいしずえ

